

旧赤松家だより

平成 31 年 3 月 6 日



暖かな日差しに春の訪れを感じるこの頃。庭内の花壇では、園芸ボランティアスタッフの手によって植えられたビオラやパンジーが愛らしい花を咲かせています。

1862 年（文久 2 年）江戸幕府は、ヨーロッパの先進技術を習得するため 15 名の武士、医者、職人を留学生としてオランダへ派遣しました。彼らが留学先から持ち帰った知識は、数学・化学・法学・医学など多方面に及び、明治時代初期の日本を支える大きな力となりました。

赤松則良はその一員として造船ほかいろいろな技術を学びました。帰国後は、造船技術者として明治時代の海軍の整備に尽力し、主船寮長官、横須賀造船所長などを歴任しました。



幕末オランダ留学生（沼津資料記念館所蔵）
前列右から西周、赤松則良
後列中央が榎本武揚

今月 6 日から内蔵ギャラリーでは、『桶ヶ谷沼・佐鳴湖の四季～命の輝きを見つめて～』と題して、堀内映^{うつる}さんが撮られた、桶ヶ谷沼や佐鳴湖に生息するトンボなど生き物の写真 40 点を展示しています。ぜひ、ご覧ください。

内蔵ギャラリーのご案内

『桶ヶ谷沼・佐鳴湖の四季～命の輝きを見つめて～』堀内映 写真展

開催期間：3月6日（水）～ 3月19日（火）

*休館日 3月11日（月）、3月18日（月）

開催時間：午前9時～午後4時30分

（最終日は午後3時まで）

入場料：無料

出展者：堀内映

問い合わせ：旧赤松家記念館 0538-36-0340



展示作品から（ベッコウトンボ）